

# 宮澤賢治センター通信

(岩手大学内)

(題字/金森由利子)

第15号

発行人

〒020-8551  
盛岡市上田四丁目3番5号  
電話 019-621-6672  
FAX 019-621-6493  
宮澤賢治センター(岩手大学内)  
発行責任者 鈴木幸一

## 目次

- 巻頭言 代表挨拶……………1
- 第6回総会の開催……………2
- 新役員の紹介……………4
- 定例研究会の概要……………4~8
- 「ミニ・茶話会」便り……………9
- 賢治と音楽の会便り……………10・11
- おすすめの本……………11
- 宮澤賢治記念短歌会報告……………12
- エッセイ……………13
- 特別寄稿……………14~16
- ウルグアイだより……………17

## 巻頭言



### 賢治さんの「よーさん」と 代表拜命の関連性

宮澤賢治センター代表 鈴木幸一

6月15日に話題提供をさせていただきますました。その準備中に新しく気付いた点があります。

賢治さんの小学4年時の作文「よーさん(養蚕)」(明治39年1906) ↓ 岩手軽便鉄道(大正2年1913)昭和11年(1936) ↓ 岩手軽便鉄道の1月には桑が登場(春と修羅第2集) ↓ 最期の日は元「お蚕さん部屋」(昭和8年1933の9月21日)という1つの筋道がみえてきました。わが国において発展してきた知的財産である蚕糸技術や、蚕糸業を背景に培われてきた地域文化が消失する恐れがあるという理由から、平成14年3月に農林水産省生産局長通知の形で養蚕文化継承地域を指定し、わが国の養蚕業の維持・継承を図ることが必要で

あると策定されました。これに基づいて、岩手県でも養蚕文化継承地域整備方針が平成19年3月に出されました。その岩手県の養蚕文化継承地域とは、久慈市・洋野町・軽米町・二戸市の県北、宮古市・山田町・大船渡市などの沿岸、そして一関市・奥州市・平泉町の県南は勿論ですが、花巻市と遠野市も入っています。すなわち、この養蚕文化継承地域の花巻市・遠野市の桑畑は岩手軽便鉄道をすっぽりと包みこみ、その車窓の賢治さんを想像することができました。

小生の専門分野は、ヤママユ(天蚕、山まゆとも呼びます)、桑、カイコ冬虫夏草、繭シルクから新しい生物活性物質を発見して、その機能をヒトの健康寿

命に役立てる研究開発です。がん・糖尿病・動脈硬化の予防から認知症の予防までを目指しているのですが、主流の昆虫学全体からみれば、何をやってい

るのかということになるかもしれません。昆虫学の範疇から外れているのか、昆虫学を忘れてしまったのかという批判です。しかし、手前味噌としては新しい分野を開拓しているのですから、これらの批判を甘んじて受け入れる覚悟でいます。独創的で、オリジナルな分野を開拓している挑戦者であれば、同業者に認められずとも、研究成果さえ公表しそれが社会に貢献するようであれば幸いなわけです。賢治さんの1人のファンとして、彼の「よーさん」からはじまった養蚕業との関わり合いを

出来る限り探し出し、それらに後押しされながら、20世紀の形のままで学術研究を目指すのではなく、賢治さんの作品が21世紀になってはじめて理解されるのであれば、21世紀型昆虫学の使命を切り開くことも彼のファンとしては、本望なことであり

ます。15日のこのような話題提供後に、第6回の総会で図らずも代表を拜命しました。これまでの歴代の代表とは違いますが、副代表の石田絃子先生や理事兼任事務局長の佐藤竜一先生をはじめとして皆様のサポートをお借りしながら務めさせていただきました。1つ嬉しいことがあります。佐藤(竜)先生に調べていただいたのですが、この2年間で会員数が390名程度から450名近くまで増えているという事です。一般に、多くの学術団体、法人団体、任意団体においては、少子高齢化社会の到来による介護関連や流行を追

う芸術芸能分野を除けば、経済事情も反映してか会員数の増加ということとはほとんど望めない状況です。会費もなくセンター通信も無料で配布されることも会員数の増加促進になっていると思われませんが、全国区からの入会申し込みであり、賢治さんは21世紀ではじめて理解されるということが根拠になっていると考えられます。賢治さんファンが増えることは、取りも直さずセンターにとっては大きな財産であり、さらに岩手大学のサポーターにもなり得ることを意味します。大学の第3の使命として、教育・研究の他に社会貢献が掲げられていますので、本センターの使命もまさにこの範疇に入ります。

代表拜命後に、広島市にある可部山まゆ(ヤママユ)同好会(広島市安佐北区可部地域で活動)の誘いを受け、新幹線の乗継で片道8時間をかけて出かけてきました。江戸時代から大正初期にかけて山まゆ織が盛んで、300人もの商人が従事していたそうです。このことから、広辞苑には山まゆの産地として長野県と広島県が紹介されています。現在は生業としてほとんど成り立ってはいませんが、歴史的な背景を基盤として、70名ほどの会員数が山まゆ



を新しい形で復活しようとして  
います。そこで、岩手大学の私  
どもの知財である山まゆからの  
化粧品開発技術に着目し、是非  
一度現場を視察という要望に応  
えた次第です。会員の皆様の熱  
意に対して、今後岩手大学の科  
学技術指導を約束したのは可部  
ですが、最も感激したのは可部  
小学校の構内に山まゆハウスが  
あり、小学3年生3クラス全員  
が飼育中で、観察記録ノートも  
ありました。担任の先生に思わ  
ずこう伝えました。―100年  
以上経て、賢治さんの「よーさ  
ん」が蘇っており、可部小学校  
の卒業生から賢治さんのような  
人材が生まれるかもしれませ  
んよーと。

## 宮澤賢治センター第6回総会 平成24年6月15日

「宮澤賢治センター」の第6回総会が、平成24年6月15日(金)に岩手大学農学部1号館第1会議室で、定例研究会後に開催された。姉歯理事司会により新たに代表に就任した鈴木幸一氏(岩手大学研究交流部特任教授)の挨拶の後、佐藤竜一事務局長が2011年度事業報告、2012年度事業計画、役員の選出について説明し、原案通り承認された。

### 1 2011年度事業報告(11年4月1日～12年3月31日)

- ・総会 6月24日(金)
- ・定例研究会 第52回4月21日(木)、第53回5月26日(木)、第54回6月24日(金)、第55回7月14日(木)、第56回9月16日(金)、第57回10月28日(金)、第58回11月17日(木)、第59回12月8日(木)、第60回2月16日(木)、第61回3月15日(木)
- ・第5回宮澤賢治学生短歌大会 12月10日(土)に表彰式
- ・宮澤賢治記念月例短歌会
- ・賢治と音楽を楽しむ会
- ・センター5周年記念展示会「関豊太郎と宮澤賢治―賢治の学んだ72の石たち(6月24日(金)～7月24日(日)、企画に協力)
- ・「宮澤賢治センター通信」第12号・第13号・第14号発行  
7月20日・11月20日・3月20日

### 2 2012年度事業計画(12年4月1日～13年3月31日)

- ・総会 6月15日(金)
- ・定例研究会 第62回4月20日(金)、第63回5月18日(金)、第64回6月15日(金)、第65回7月20日(金) 以後8月、1月を除き毎月一回開催する。
- ・第6回宮澤賢治学生短歌大会
- ・宮澤賢治記念月例短歌会
- ・賢治と音楽を楽しむ会
- ・「宮澤賢治センター通信」第15号・第16号・第17号発行  
7月・11月・3月の発行予定
- ・その他

### 3 役員の選出

## 宮澤賢治センター入会のご案内と 原稿募集のお知らせ

岩手大学では、賢治生誕110年の年である2006年の開学記念日(6月1日)を期して、「宮澤賢治センター」を設立いたしました。

- ① 広く岩手大学における宮澤賢治の関心を集約する
- ② 組織は学長裁定のNPO的組織とし、趣旨に賛同する人は誰でも加入できる
- ③ 設置場所は岩手大学内「百年記念館」とし、日常の連絡先は岩手大学地域連携推進センター(TEL019-1621-6672、FAX019-621-6493、Eメールkenji@iwate-u.ac.jp、ホームページ<a href="http://kenjicgdsiwate-u.ac.jp/">http://kenjicgdsiwate-u.ac.jp/)とする
- ④ 会費は当分徴収しない

賢治に関心があり、広い意味で岩手大学にご縁のある方であれば、どなたでも歓迎いたします。メールや電話、ファックスで入会申し込みができます。会員の方には、「宮澤賢治センター通信」をお送りしています。

なお、「通信」の次号(第16号)は11月20日発行を予定していただきます。10月末までにメールまたは郵送で、宮澤賢治センターまで送付してください。内容によっては掲載できない場合がありますので、ご了承ください。

宮澤賢治センターでは設立5周年を迎えた昨年、ロゴマークを作りました。作成者はアートフォーラムいわての中島香緒里さんで、宮澤賢治の代表作「雨ニモマケズ」をスタンプに見立て、改めて賢治の想いを多くの人々の心に刻み込みたい。そういう想いで作成したということです。



宮澤賢治センターの規約と役員・事務局名簿

宮澤賢治センター（岩手大学内）規約

第1条 名称

この会は、「宮澤賢治センター（岩手大学内）（以下、「本会」という。）」と称す。

第2条 目的

本会は、宮澤賢治についての多くの関心を結集し、会員相互の交流を促進して、賢治研究の普及と発展に努めることを目的とする。

第3条 事業

前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 定例研究会
- (2) 全国宮澤賢治学生大会
- (3) 会員の主催する賢治関連企画
- (4) その他必要な事業

第4条 会員

宮澤賢治について関心があり、本会の目的に賛同する者は誰でも会員になることができる。なお、会費は当分、徴収しない。

第5条 役員

本会に、次の役員を置く。

- (1) 代表 1名 本会を代表し会務を総括する。
- (2) 副代表 1名 代表を補佐し、代表に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 理事 若干名 役員会の構成員として、会の運営の審議に当たる。

2 任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、連続任期は3年までとする。

3 各役員は総会において会員の中から選出する。選出方法の詳細については、別に定める。

第6条 事務局

事務局に事務局長、事務局次長、幹事を置く。

- (1) 事務局長 1名 日常的な会務の処理・運営上の調整等を行う。
- (2) 事務局次長 2名 事務局長を補佐し、事務局長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 幹事 若干名 会の実務を処理する。

2 事務局長、事務局次長は、役員会において互選する。

3 幹事は、役員会において会員中より推薦し、代表がこれを委嘱する。

4 事務局を岩手大学百年記念館に置く。ただし、日常的な連絡場所は、岩手大学地域連携推進センターとする。

第7条 総会

総会は、代表が招集する定例総会を年1回開催する。なお、役員会の決定または会員の三分の一以上の要請があれば臨時総会を開くことができる。

- 2 総会の議長は、代表が務める。
- 3 総会の議決事項は次のとおりとする。
  - (1) 事業報告
  - (2) 事業計画
  - (3) 規約の制定及び改正
  - (4) 役員を選出及び改選
  - (5) その他必要と認められる事項

第8条 役員会

役員会は、代表、副代表、理事、および事務局長、事務局次長によって構成し、必要の都度開催して次の事項を審議する。

- (1) 総会の付議事項
- (2) 会員の入会及び退会
- (3) 本会の業務遂行上、緊急かつ重要な事項
- (4) 総会で決定した事項の具体的運営について
- (5) その他、必要と認められる事項

第9条 事務局会議

事務局会議は、代表、副代表、事務局長、事務局次長、幹事によって構成し、日常会務及び役員会の議題の整理等を行う。

(付 則)

この規約は、2007年10月11日から施行する。

平成24年度宮澤賢治センター役員・事務局名簿

(平成24年6月15日現在、アイウエオ順)

代 表	鈴木 幸一	岩手大学研究交流部特任教授
副 代 表	石田 紘子	深沢紅子野の花美術館館長
理 事	姉齒 武司	岩手大学工学部卒業生
//	池田 成一	岩手大学人文社会科学部教授
//	大塚 尚寛	岩手大学工学部教授
//	大野 眞男 (新任)	岩手大学教育学部教授
//	大橋 春香	岩手大学教育学部学生
//	岡崎 正道	岩手大学国際交流センター教授
//	岡田 幸助	ウルグアイ共和国獣医学部ボランティア教授
//	木村 直弘	岩手大学教育学部教授
//	小島 聡子	岩手大学人文社会科学部准教授
//	佐藤 竜一	岩手大学大学教育総合センター特別講師
//	武田 純一	岩手大学農業教育資料館館長
//	羽倉 淳	岩手県立大学ソフトウェア情報学部准教授
//	早川 浩之	岩手大学地域連携推進センター主幹
//	向井田 薫	岩手大学北水会名誉会員
//	望月 善次	盛岡大学学長
//	森 三紗	盛岡・宮澤賢治の会代表
//	山本 昭彦	岩手大学人文社会科学部教授
事務局長	佐藤 竜一	理事兼任
事務局次長	早川 浩之	同上
幹 事	姉齒 武司	同上
	亀井 茂	岩手大学農学部附属農業教育資料館研究員
	菅波 智洋	岩手大学地域連携推進センター主幹

# 新役員の紹介

## 生きる糧として 賢治の作品を受容



岩手大学  
教育学部教授  
大野 眞男

今年度から賢治センターのお世話役の一人として会の運営に関わらせていただく大野眞男と申します。岩手大学教育学部の教員をしております。あいにく文学が専門ではなく、日本語学分野でなりわいをたてておりますが、生業をはなれて賢治作品に親しんできた愛読者の一人です。

子ども時代はひとさま並みにイーハトーヴ童話に接してきましたが、きちんと賢治と向き合ったのは大学院に進んで研究生活の入り口に立ったころでした。酒を覚えて毎夜飲みあるいは、友人の安下宿に転がり込んだ二日酔いのある朝、賢治の愛読者であった友人の文庫本が枕もとにころがっていて、なにげなしに「やまなし」の一節をたどりたどりの賢治再発見でした。

なりで寝息をたてている友人を起こさないように、窓から差し込む薄日の下でひっそりと読みすすむ蟹の親子の川底の世界は、修羅の町東京で先の見えないう大学院生活に疲れきっていた者を感じこむ大きな癒やし力を持つていたのでしよう。

文学の研究者でなければ賢治作品の正しい解釈ができないという閉鎖的な議論ではなく、その人なりの視座から新たな読みを开拓していく、賢治作品にはそんな創造的な受容の仕方が似つかわしく思います。これまでも、専門である言葉屋の立場から賢治の方言使用について考え論じたことが幾たびかありますが、それもまた研究者の足かせが、自分本来の読みをある程度制約してしまっていたことでしょう。もう一度、学生時代の賢治との出会いを原点にしなければと思えます。

「どなたでもどうかお入りください」という賢治センター設置の趣旨には心から賛同いたします。賢治自身の芸術観も人の生き方に開かれたものであったことは、農民芸術概論綱要に「芸術のための芸術は少年期に現はれ青年期後に潜在する。人生のための芸術は青年期にあり、成年以後に潜在する。芸術としての人生は老年期中に完成する。」

(句読点は大野)とあるのを見ればわかります。必ずしも研究ではなくて、生きる糧として賢治作品を受容する、そんな賢

# 定例研究会の概要

第61回 3月15日(木)

- ▽会場 農学部1号館第1会議室
  - ▽講師 岩手大学国際交流センター教授 岡崎 正道氏
  - ▽演題 「宮澤賢治と帝国日本」
  - ▽司会 石田 絃子
- 参加者 29名。



岡崎正道氏

宮澤賢治センターの定例研究会で、初めて講演の機会を得た。同センターの理事の一人であり、もとより賢治に対する関心は従前より浅からぬものがあつたが、いざとなると「はて、何をテーマとしたらいいだろうか？」と迷った。私は大学・大

治センターのお手伝いができることを幸せに思います。  
(宮澤賢治センター 理事)

学院(いずれも東北大学)を通じて専門は日本思想史であり、それで食えなかった(就職が甚だ困難だった)ため、26年前に外国人留学生に対する日本語・日本事情教育の分野に転じ、現在は岩手大学でそれを生業としている。どちらの分野も特に宮澤賢治と直接の関係はなく、近代日本の思想史が専攻とはいっても、賢治をテーマとする論文などもこれまでに書いたことはない。文学は好きだが、本格的に文学を研究しているわけではなく、この方面から宮澤賢治を論じることも私の手に余る。

講演・発表の約束はしたものの、どういいう演題・内容にしたらいいか、正直困った。

ただ昨年「宮澤賢治センター通信」に「宮澤賢治と石原莞爾」と題する論考(というより雑文に近いが)を寄稿したことがあり、その中で両者の法華経信仰などについて若干の考察を

行なつたので、今回の講演でもそのあたりから切り込んでみようと考え、演題を「宮澤賢治と帝国日本」と決めた。1896年〜1933年が賢治の生没年だが、この時代(多少幅を広げて、1894年の日清戦争から日本の大陸侵攻、日中戦争勃発ぐらいまで)の日本の歩み、すなわち近代国家「大日本帝国」の発展と没落の過程を歴史的にたどり、賢治の生きざまと思想形成がこれとどういふふうにつながっていくのかということ、発表の要点にしようと考えた。

日清・日露の両戦役に勝利して極東の強国としての名声を高めた日本は、欧米の帝国主義国家と時に協調し、また時にこれと対峙し、ついにアジア大陸に覇を求めて1930〜40年代の大戦争に突入していくわけであるが、まさにこの時代に生きた宮澤賢治がこうした時代の動きと無縁であつたはずはない。

賢治が小学生の頃に日本は日露戦争に勝利し、朝鮮を併合してさらに満州に権益を確保する。次いで彼が盛岡高等農林に在学中、第一次世界大戦が戦われた。日本はドイツから中国における利権を奪取し、やがて大陸に進出する橋頭堡とするが、反面それが中国人民の反日感情を大いに刺激する結果ともなっ

ていく。

賢治が盛岡高農を卒業し、父と信仰上の確執をきたして上京、国柱会に入会して日蓮宗への傾倒を深めていく時期は、第一次大戦後国際的地位を高めた日本がシベリア出兵などを行ないつつも国際協調外交を展開し、国内では多くの国家主義団体や日本共産党など左右両翼の諸勢力が伸長する時期でもあった。賢治自身こうした思想から少なからぬ影響を受け、実践活動にも関わっていった。1926年に設立した「羅須地人協会」は農民に土壌学・肥料学等の農業指導を行なったが、地元の労働党などとも賢治は接触があり、政治的な活動にも決して無縁ではなかった。

宮澤賢治の思想を考察する上で、彼が関係あるいは親交を有した人物の多彩さに大いに注目すべきであろう。まず父政次郎が信仰する浄土真宗の関わりでは暁烏敏・島地大等等と真宗の学者、やがて傾倒する日蓮宗・国柱会の関係で田中智学と高知尾智耀の存在が非常に大きい。田中智学の主唱する「世界統一の天業」という理念は、古くは高山樗牛らに影響を与え、やがて智学の息子で熱烈な国家主義者である里見岸雄や石原莞爾などに大きな示唆を与えていく。

石原が首謀者となった満州事変は「15年戦争」の着火点であるが、それは石原の持論たる「世界最終戦構想」の突破口の実践でもあった。石原が結成した東亜連盟は新東亜の建設をスローガンとしたが、農本立国を掲げて実践に取り組んだ点で、賢治の「羅須地人協会」との共通性も指摘される。

智学の影響下に創価学会創立者の牧口常三郎や立正佼成会の庭野日敬などの宗教家が生まれ、強烈な日蓮宗徒としては、一人一殺を唱えた血盟団の井上日召や国家社会主義者・北一輝も重要である。農本主義の観点からは、5・15事件に関わった権藤成卿や橘孝三郎も忘れてはならない。こうした人物たちは賢治と直接交友関係を有するわけではないが、同時代に生き、多分に類似した思想によって日本の改革・改造を目指した点で賢治の人脈相関図に挿入させることができると思う。

賢治と直接に関わりを持った人物としては、無教会派クリスチャンの内村鑑三につながる斎藤宗次郎や照井真臣乳、バプティスト派牧師のタッピングなどキリスト教関係者も重要である。また岩手における労働運動の指導者であった横田忠夫や石川金次郎、賢治にレーニンの「国

家と革命」を教示した川村尚三など左翼系の人々も、賢治の思想形成に少なからず影響を及ぼしたはずである。

\*賢治の友人としてよく知られる、保阪嘉内・河本義行・小菅健吉・藤原嘉藤治・森莊己池・白藤慈秀・阿部孝・関徳弥・草野心平といった人々は、ここではあえて挙げない。

宮澤賢治の思想には、仏教浄土真宗・日蓮宗、キリスト教、農本主義、社会主義、国家主義、ユートピズム、超国家主義など、様々な要素が渾然一体となっているように思われるが、それは彼が特定のイデオロギーや宗教理念だけに固執することなく、こうした多くの人物との関係を通して、あるべき国家と世界の姿を模索し続けていったがゆえにほかならない。したがって宮澤賢治を単純に「○○主義者」と決めつけることはできないが、反面彼を極端に理想化・美化し、時代状況から超絶した聖人のごとくに賛美するものも、これまた行き過ぎと思われる。

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」（農民芸術概論綱要）という有名な文章は、利己的な個人主義や偏狭な国家主義を克服する世界普遍主義の思想的表明

として語られることが多いが、果たして賢治は、人類が個人や国家を超えたインターナショナルリズムの意識へと昇華することを目指してこれを書いたのであるのか？この一節の後には「新たな時代は世界が一の意識になり生物となる方向になる……われらは世界のまことの道を索ねよう。求道すでに道である」という文章が続く。賢治の田中智学・国柱会への傾倒・心酔（「最早私の身命は日蓮聖人の御物・田中智学先生の御命令の中に丈あるのです・田中先生に・私は・日蓮聖人に従ひ奉る様に絶対に服従致します」保阪嘉内宛書簡）を背景にしてこの文章を読めば、日蓮主義による世界統一へ直通する超国家主義（文字通り「国家を超える」イデオロギー）の表白とも感じられるのである。

終生大いなる夢とロマンを追い求めながら、現実には貧苦に喘ぐ農民の窮状をいかに打開すべきか、全身全霊を込めて模索し続けた宮澤賢治の生きざまに、私は強いシンパシーを覚える。彼が花巻農学校の教え子たちに向けて発した「諸君はこの颯爽たる諸君の未来園から吹いて来る透明な清潔な風を感じないか」というフレーズは、実に心躍らせる響きがある。

しかし「蟲眞の引き倒し」に墮するような美化はよくない。戦後の民主主義・平和主義の見地から賢治をただ「心優しい平和主義者」と一面的に高評してしまうのは、逆に彼の実相を見失うことになりかねないと思う。「戦争は人口過剰の結果、その調節として常に起るものに御座候。その戦争に行きて人を殺すと云ふ事も、殺す者も殺される者も等しく法性に御座候」と書いたのも賢治なら、満州事変の戦果を聞いて「熱河錦州の民が皇化を讃えて生活に安んじている……心身堅固に祖国の護りを受けられ、世界戦史にもなかつたと言われる此の度の激しい御奉公を完成させられるやう祈りあげます」と出征した知人に書き送ったのも宮澤賢治その人にほかならない。賢治が長命であれば、岩手県からも多くの人々が送られることになる「満蒙義勇団」などの活動に、貧窮農民の救済のためと信じて積極的に協力していった可能性は多分にあることも否定できないであろう。

（岡崎 正道 記）

第62回 4月20日(金)

▽会場 農学部1号館第1会議室

▽講師

岩手大学人文社会科学部教授 開 龍美氏

▽演題 「宮沢賢治における

「ほんたうのさひはい」について—環境思想の問題圏から—

▽司会 小島 聡子

▽参考者 36名。



開 龍美氏

環境思想は、レオポルドの「土地倫理」、カーソンの『沈黙の春』が、現代社会の人間中心主義を糾弾し鳴らした警鐘を、様々な学問領域で真摯に受けとめるところから形作られてきた。その範囲は様々な領域に及んでいるにせよ、中核は環境哲学・環境倫理学が担っている。環境哲学・環境倫理学は、これまで倫理の対象に数え入れられることのなかった生物の生命価値と彼らの住まいである自然世界の存在価値を根本から問う。そして生物保護・環境保護の現場に即したその問いかけは、尊重すべき本質価値を生物個体に

認めるのか(↓個体論)、それとも生物種・生態系に認めるのか(↓全体論)という論争となつて際立てられている。つまりは「個のいのち」と「全体としてのいのち」の対立をめぐる問題である。

この問題の枠組みを念頭に置くと、宮沢賢治においては、捨身と献身(自己犠牲と他者救済)をとおして「ほんたうのさひはい」の実現を目指すところでの「個人の幸福」と「全体の幸福」との葛藤として現れている。彼の人生は、自分のことは勘定に入れずひたすらに他人に尽くし、その献身のあまり人生半ばで倒れたという印象を拭えない。その点で「世界がゼンたい幸福にならないうちには個人の幸福はあり得ない」と述べる「農民芸術概論綱要」の一文は、賢治の決意表明とも受け取れるもので、自分の幸福と全体の幸福の狭間で何らかの道を見いだそうと、もがき苦しむ姿が浮かびあがってくるようだ。そして、賢治に一筋の道を照らし出したのは、終生彼がより所とした仏教的世界観であったに違いない。「縁起ゆえに無我である」という仏教の教えが示す、自己存在を徹底して関係性から捉える世界観は、『春と修羅・序』にある「わたくしといふ現

象は／仮定された有機交流電燈の／ひとつの青い照明です」の一節に凝縮する。自己はそれ自体として存立する実体(モノ)ではなく、むしろ他者との相互関係性のなかでその都度立ち現れる現象(コト)である。すべてのもは他のすべてのものにつながつている。より厳密には、私は個としての私でありながらも関係性の集約・総体として生成し全体を表現している。私は同時に世界でもある。賢治の童話世界では、人間と動物・植物・自然物などあらゆるものが共鳴・共振しており、すべてのいのちのつながりが確信として表明されている。この点で賢治の文学は、近代的自我の問題に収斂する日本近代文学にあって特異であり、今後大きな展開を見せるであろう日本環境文学に極めて大きな位置を占めることになる。

しかしすべてのものの関係性の思想は、賢治にはまた過酷な現実をもつて迫っている。自己は他との関わりをなかに生成するにせよ、生身の身体をもつことで個体としてのいのちを生きている。したがって、個としての私は、生き物であるかぎりは生きながらえようと、他者のいのちを奪わざるを得ない。この生存罪の呵責は、『よだかの星』で

はよだかの慟哭となつて響いている。口に飛び込んだカブトムシを「よだかは・・・無理にのみこんでしまいました、その時、急に胸がどきつとして、夜だかは大声をあげて泣き出しました。泣きながらぐるぐるぐるぐる空をめぐるのです・・・ああ、つらい、つらい。僕はもう虫をたべないで餓えて死のう」。関係性を生きる自己にある「すべてのものはつながっている」という「いのちのつながり」の確信は、『ビヂテリアン大祭』にもあるように「食うー食われる」の「おそろしいまでの真剣な世界」の現実として賢治を恐怖とともに圧倒する。私

は他のいのちを食らい、自らのいのちを担う生きものである。自己は関係性を生きる存在であるがゆえに、個の立場を徹底し「他のいのちを奪い食らうこと」を絶対肯定し、心安らぐことはできない。自己は関係性を本質としている以上は、個を超えたものに開かれ志向する。その志向を愛と呼ぶ。この動向は、賢治が捨身・献身に徹し「ほんたうのさひはい」を希求し辿った道筋に重なる。賢治は、個としての自分から出発し、「兄弟性」に支えられた汝と呼ぶる他者に向かい合い、それを經由して「みんな

の全体の幸福へと到達しようとしたのではなかったか。彼は信仰をともしにして、どこまでもいつしよに行ける、汝と呼べるような他者を「兄弟性」に求めた。具体的には妹トシであり、親友保阪嘉内であった。しかしトシとは死別し、保阪とは決別してしまった。つまり、賢治は、ブーバーが『我と汝』で指摘するような、汝と相互的、直接的に関わり、生きた現実を分かち合うことを、途中で断念せざるをえなかったのである。その断念という思いを自ら断つようにして、長編詩「小岩井農場」では、「じぶんとそれからたつたもひとつのたましひと／完全そして永久にどこまでもいつしよに行かうとする／この變態を戀愛といふ」とみなして、汝と呼ぶべき生身の他者への愛を断罪する。賢治のこうした姿勢の變化は、『銀河鉄道の夜』の初期形第一次稿から最終形に至る変移にも跡づけできる。

シュヴァイツァーの「生への畏敬の倫理」が示す妥協を許さぬ絶対的倫理に照らすと、宮沢賢治は、個人の幸福と全体の幸福をめぐる、個としてのいのちを身体とともに担わざるを得ない私自身の葛藤・呵責を現実のただ中で突き詰めないままに、一途に捨身を求めた。その捨身

願望は身体の透明化と消去を含蓄する「すきとおった」ものへの賢治のこだわりとなって作品中で表象されている。こうして賢治は、個（の幸福）から全体（の幸福）へと一挙に飛躍し、個と全体のディレンマを、解決したのではないかとの疑問が残る。個が融合・融解する「全体としてのいのち」が、銀河の表象にとどまらず、一つの生物としてイメージされ実体化されるところで（「農民芸術概論綱要」）、個のかけがえのなさが希薄なものとなり、賢治の文学・思想においては個人の幸福は全体の幸福に飲み込まれるかのようにも見える。

（開 龍美 記）

第33回 5月18日(金)

▽会場 農学部1号館第1会議室

▽講師 賢治・歌語りサロン

主宰 高橋 梯子氏

▽演題 「賢治作品の英訳と歌語りに遊ぶ」

▽司会 池田 成一

参加者 21名。

自由な話題で良いので5月定例研究会で60分間講話をして貰えないか、というお話を頂いたのは確か1月頃でした。『如何なる話題にするかは話題提供者に全てお任せ』となると、かえって話したい事が有象無象脳裏に閃いてきて、話題目の選択設定には数週間かかりました。『私のライフワーク・賢治作品の英訳に関する話をするには60分間て発表資料を作成して発表準備をしたとしても、私自身も聴講者側も月一度の貴重な研究会を共に楽しむ雰囲気にする自信も持てない、それならば既に制作済みの「DVD・賢治のイーハトーブ礼賛・命の泉」「雨ニモマデズ」と、この2月制作の「CD・「告別」作詞・宮澤賢治 作曲&歌唱・高橋梯子」上映と実演をすることにはどうだろう。これならば事前準備はそれ程負担にはならないし、参加者にも程々に楽しんで貰えるかも。。。』というところに落ち着きました。



高橋梯子氏

前者「DVD」は、「水沢・賢治を語る集い「イサドの会」」〜「発会から満5年目、毎月一回定例会、累積回数60回を期して昨年12月解散」〜代表として

の5年間、賢治の生前を知る当時の教え子や地縁者の証言、私を含めた自称・賢治研究者のユニークな発表などの、様々な見聞を重ねるにつれて、『賢治さんの魅力をもっと分かりやすく楽しく伝えたいなあ！ それには、まず自分で賢治の生涯を脚色して、これを歌語り風に演出してDVD化するのが一番では。。。』という私の想いに、映像とBGM担当のY氏とギター伴奏担当のO氏が賛同なされ、三者の共同制作の下に実現したものでした。「DVD」に使用された賢治ゆかりのイーハトーブ岩手の風景映像は、Y氏が長年に亘って撮り貯めた中から脚本に適したものを配置なされたものですが、ご自身の賢治に寄せる日頃の研鑽と憧憬心、それに音楽やオーディオ機器に対する卓越した識見と技能とが相俟って初めて結実した作品であると感謝して居ります。

後者「CD・告別」は、『春と修羅・第2集』所収の詩ですが、実は、「本CD」制作着手以前、この詩の存在にすら私は気付いて居らず、身内からメール添付送信されて初めて知らされました。読み返すたびに、賢治が花巻農学校を依願退職する際に教え子に託した願望の想いが、言うなれば私の琴線に触れたのでした。

『よし、このシャンソンの詩風をメロデーに載せて歌い上げるようにすれば、一見難しいと思われる詩もより容易に理解され愛唱される作品として、多くの人々に知られるようになるかもしれない』と。。。そこで数週間かけて何とか仕上げたメロデーをテープ録音したものを、採譜して更にギター伴奏用の編曲からCD化も手掛けられるB氏のご協力を得て実現したものでした。

講話前半…  
 題目「1」ライフワーク「賢治作品」英訳と歌語りに至る迄の軌跡。  
 配布資料：宮澤賢治センター通信第14号「特別寄稿「賢治さんに惹かれて歩む暮らし」」。  
 定年退職から今日までの我が暮らしの軌跡については、ほぼ特別寄稿で述べましたから、他に特に付け加えた話題は、ご出席されて居た岡崎先生に対する私の感謝の言葉でした。岡崎先生は、私の最後の勤務校・杜陵高校時代に担当した英語の選択科目「外国事情」を軌道に乗せる為に、当時の岩手大学研究課程留学生の授業講師の人選やら杜陵高校との仲介交渉面を一手に引き受けて大変お世話になった忘れ難きお方でしたから。。。

題目「2」歌・語り に遊ぶ。  
 配布資料：①「DVD」歌語り・イーハトーブ賛歌「命の泉」「雨ニモマケズ」収録主要項目  
 ②「CD」「告別」日英語対訳プリント  
 ③「宮澤賢治」KENJI I 便「Yahoo! ジオシティーズ http://book.geocities.yahoo.co.jp/g/phk/jey 日英語対訳事例紹介済み作品リスト；自・2010年11月5日 至・2011年12月3日 「黄いろのトマト」他 17作品 累積掲載回数：239回  
 ④ 電子書籍出版済み「日英語対訳・作品リスト」 出版出版社・でじたる書房(株)：「黄いろのトマト」購買0円 「氷河鼠の毛皮」購買0円 「税務署長の冒険」購買315円(税込) http://www.digbook.jp/product\_info.php/products\_id/15903 配信開始2012/05/15

①「DVD・歌語り」の賢治の生涯を如何に脚色したかを伝えたい思いから以下に示します。  
 「1」〈語り〉幼年・小学・中学・高等農林時代・種山探訪 〈朗読「種山ヶ原の夜」〉〈歌「牧歌」〉〈朗読「原体村の見学」〉〈吟詠「剣舞の歌」〉  
 「2」〈語り〉家出・上京・童話創作 〈朗読「鹿踊りのはじ

まり」〈吟詠〉野鹿の太陽賛歌

〔3〕〈語り〉花巻農学校教師時代 〈朗読・歌〉「イギリス海岸の歌」

〔4〕〈語り〉教師時代 〈歌〉「精神歌」

〔5〕〈語り〉羅須地人協会・病床時代・東北砕石工場時代・晩年 〈歌〉「辞世の句、二首」

〈歌〉自作自演・日英両語歌詞「雨ニモマケズ」

〔6〕ギター演奏「雨ニモマケズ」

特記・配布資料 ②「告別」対訳プリント ③日英語対訳事例紹介作品リスト ④電子書籍出展リスト

上記資料は、制限時間を考慮して配布のみで説明カット。

講話後半…

〔1〕「DVD・歌語り」上映視聴(約45分) 〔6〕ギター演奏「雨ニモマケズ」は時間制限の為、カット。

〔2〕「告別」歌唱実演・「告別」をレコーディングした本人が居るのに、その「CD盤」を再生するのは変な話と心得ていたので実演した訳ですが、いざ歌い出したら低音がかすれていつもの美声(?)をお聞かせ出来ず、「CD盤」を再生した方が良かったかなあとか、かえって失態を演じて見せるのもお愛嬌

のうちだから」とか、様々な想いが未だに交錯して居ります。

研究会終了後の茶話会は、和やかな雰囲気で終始し、時間制限の為、講話中は互いに話せなかった感想や情報が交わされ、貴重な交流の場であったと感じて居ります。今なお印象に残っている発言の中に、『もう少し英訳に関する話が聞きたかったんですが。。。』このご発言に対して、『今回の講話では既述した通りの理由から、翻訳論のあれこれを論ずることを敢えて避けましたが、その機会を与えられたら、〈賢治童話に表出するオノマトペの英訳手法〉の着目点や面白さについて、講談したいとは願って居ります。お声がかからないだけの話ですと。』また、『この「DVD」は、児童生徒や賢治研究初心者向けに制作されたということですが、私も大いに楽しく鑑賞しましたよ。』このご発言を聞いた時は、「本DVD」制作の意図がほぼ達成されたという安堵と満足感を覚えたのでした。茶話会には県立大学の女子学生や盛岡市内の賢治ファンと見られる方々も閉会間際まで歓談され、この会の人気と裾野の広さを感じた次第です。

この茶話会は月例研究会終了後、欠かさず開催されているよ

うですが、茶菓調達などの裏方のお仕事もさりと手掛けて居られる様子を敬意と心地良さを覚えながら帰路に着きました。

最後に、5月定例研究会の事前打合せや資料作成等でお世話になった担当者に対して衷心より感謝の言葉を申し上げます。本当に有難うございました。

(高橋 悌子 記)

なお、高橋悌子氏は下記の資料を岩手大学図書館に寄贈してくださいました。閲覧可能です。

1 2002年 学位論文「賢治童話」に表出するオノマトペの英訳手法に関する研究

2 1の論文内容要旨

3 宮澤賢治学会イーハトーブセンター第10回研究発表記録集(日英対訳・賢治童話の読み取りから学ぶ事)「オツペルと象」に頻出するオノマトペの英訳手法を中心に)

4 DVD・歌語り・賢治のイーハトーブ礼賛、命の泉「雨ニモマケズ」

5 CD・「告別」 作詞・宮澤賢治 作曲、歌唱、英訳・高橋悌子 ……日英対訳、楽譜を含む…

## 宮澤賢治センター今後の定例研究会の予定

7月20日(金) 話題提供者: 森義真氏(近代文学研究家)  
話 題: 宮沢賢治と平泉

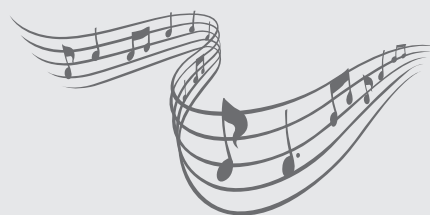
9月13日(木) 話題提供者: 木村直弘氏(岩手大学教育学部教授)  
話 題: 樺の木は顫へる—宮澤賢治(土神ときつね) 管見(承前)

10月12日(金) 話題提供者: 吉田美和子氏(宮澤賢治センター会員)  
話 題: 尾形亀之助と宮沢賢治

11月8日(木) 話題提供者: 佐藤竜一氏(宮澤賢治センター事務局長)  
話 題: 草野心平と宮沢賢治

12月14日(金) 話題提供者: 澤口たまみ氏(エッセイスト)  
話 題: 宮澤賢治の共感力—幼少年期と自然体験—

\*いずれも17時~18時、参加費無料、会場は岩手大学農学部1号館2階第一会議室  
8月はお休みです。都合により、日時や話題が変更になる場合があります。  
詳細は宮澤賢治センター(電話 019-621-6672)にお問い合わせください。





# 「三茶話会」便り ——一茶一話——

定例会終了後の茶話会の様子をお伝えします。今回もまた講義への質問や自身の考えなど忌憚の無い話し合いを自由におこない、十分に楽しめる場となりました。

○ 賢治の生涯と年代順の社会情勢、人脈相関図、賢治を取り巻く思想的背景、それがつくる賢治像が描かれ、定例会では初めての内容でした。

また、賢治の生まれた1896年8月27日は明治三陸地震の2カ月後であり、逝去の1933年9月21日は昭和三陸地震の約半年前であり、賢治の一生と大地震は不思議な巡り合わせといえるでしょう。  
ところで、賢治の思想形成に大きく関与したのは、幼き頃から浄土真宗、キリスト教、島地大等による法華経、そして日蓮宗から田中智学による国柱会へ。農本主義、労農運動ほか多岐に亘る。その積み重ねの上に賢治があり、よく賢治には明確な主義、主張がないとの批判もあるが、かえってその多面性があるが、賢治の特徴であり、懸命に生きる農民に寄り添う姿こそ賢治らしさがあると言えるのではな

いかとの指摘に大いに共感を覚えました。

○ 「ほんたうのさひはい」とは、と、大きな問題提起が始まった、そんな気がする講義でした。

環境哲学的には個体論と全体論という問題構成を採って現れるという。この「個」と「全体」の捉え方の上で、生物・自然の内在的価値を何処まで主張できるのか、何が基準でそう考えることが出来るのか、また、命を基準にした個体論倫理と全体論倫理では、動物保護か環境保護かの問いかけがでる。環境哲学は動物開放論から生態系中心主義まで大変な問題提起をする現代哲学、現実的命題と思えました。

その中で、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」という、賢治の主張の「個人の幸福」と「全体の幸福」の観点をどう捉えるか、仏教の世界観から眺めればどうなるか、大変に興味のある問題提起でした。そして、縁起観から見た自己は実態（モノ）でなく、現象（コト）であり、仏教的に「個」は「全体」で有り、「全体」は「個」で有ると、「一即多」「多即一」の考え方が示され、それは「インドラの網」にある通り全てはつながりであり、人と自然との生命

のつながり、また生命あるものとの兄弟性、しかし賢治は（我と汝）という人間関係の根本で一人を愛することは全人類を愛することにはならない」と捉え、それに対してプアーは（我と汝）の関係で、我は汝との分かち合いの関係性の上で成り立ち、我のみでは成り立たない」との言葉を提示した。そこに賢治の考え方の限界性があるのかと思えました。その為、他者救済には自己放棄としての「捨身飼虎」の姿勢をとる。そして、食物連鎖から逃れるための「すきとほったほんとのたべもの」と表現した。そこには、相互関係性「の現象」として、生きながらえるための他の命を奪う存在という「つながり」縁起を賢治は捉え切れなかったのかと思えました。

また、「欲望としての他者救済」と「義務としての他者救済」という捉え方も面白く思いました。前者はルソーの「哀れみの情」を中心に、そこに自身の幸せを感じる他者救済を位置づけ、後者はカントの道徳として、感情・欲望を否定した義務としての他者救済を位置づけています。カントの見方で有れば他者救済はかなりムリがあるが、ルソーの見方では喜びのうちには他者救済が行なわれるという事です。先日、NHK TVでラトガーズ大学の心理学教室での実験の様子が映し出されました。初対面の相手同士にリッチとプアーのくじを引いてもらい、参加料として双方に30ドル渡し、追加としてリッチに50ドル渡す。リッチは80ドル、プアーは30ドルである。そして最後に50ドルをどちらに渡すかの実験である。そのときリッチの脳の快樂中枢のフクトク腺条体の反応をfMRIで調べてみると、リッチに渡し130ドルになったときの反応はやや上昇をするが、プアーに渡し共に80ドルになった時リッチの反応は、20人の被験者の平均で130ドルを受けた時の5倍の反応が出た。普通儲けるほど反応が大きくなると思われていたのに、逆に公平さを気にする。差が少ないほど喜ぶ姿があった。これは相手が目の前にいる時の実験であったが、心理学者は人類は助け合って生きてきた。目の前の人と分かち合って生きてきた結果ではないかと語っていました。脳の深い位置ではルソーの考えの方に軍配があつたといえるかと思えます。

大乘仏教・法華経では、他のためにし、他を益しつつ自己も益する。或は、未来のためにし、未来を益しつつ現在も益する」という考え方があります。この思想に未来にわたる人類存続のカギがあると思えます。この「他と自己」、未来と現在の関係性を「縁起観」で見据えた捉え方は仏教の十界論の「菩薩界」であり、「自己のみ」或は「現在のみ」の二者択一の捉え方は同じく「餓鬼界」といえます。関係性を踏みにじる縁起観のなさで、現在世界的に直面するエゴから起こる富みの地域また社会格差問題や核廃棄物処理の未解決のまま子孫に問題を残し進める原発問題等解決のカギはこの思想（縁起観）にあると思えます。この環境哲学の観点からの見方は、賢治さんの新しい面を開いて行く起点になるものと大に期待をしております。

（姉齒武司 記）

賢治と音楽の会便り

◎ 三月という昨年の大震災が思いおこされるますが、春三月、という言葉があるように、なんとなく気持ち明るくなる様な気がする季節になりました。

「春」というとすぐにヴィヴァルディーのヴァイオリン協奏曲「四季」が思い浮かばれるように、「賢治と音楽を楽しむ会」としてもはずせない曲でした。

この曲は春・夏・秋・冬の四季からなり、それぞれ四曲とも急・緩・急の三楽章からなっており、例えば「春」の第一楽章は春の喜び、小鳥の歌、そよ風のささやき、第二楽章は春の日羊飼いの牧羊犬も共に眠っている。第三楽章は踊る妖精の姿など四季の全楽章は情景描写となっています。

続いては明るい曲のチャイコフスキーのバレエ組曲「くるみ割り人形」を聴きました。組曲は、1、序曲 2、行進曲 3、こんぺい糖の踊り 4、ロシアの踊り 5、アラビアの踊り 6、中国の踊り 7、あし笛の踊り 8、花の円舞曲 で構成されています。

考えてみると、チャイコフスキー本人は「鬱」系なのにこんな

なに明るい曲を作曲するのは不思議な気がします。しかし、そこが天才的な作曲家のすごいところなのかと思えますが、モーツアルト、ベートーヴェン、シューベルト等々本人の環境では考えられない様な明るい、楽しい、清らかな曲を多数作っています。曲はその天才達の脳に勝手に下りてきて、自身が考えながら創る物ではないとも思われました。

◎ 本年3月、NHK総合TVで、昨年3月11日当夜、トマス・ハーディング指揮、新日本フィルに依るマーラーの「交響曲第5番」が演奏され、それは、奇跡の演奏、として語り継がれる様な名演奏がされたそうです。そして今年3月その映像が放映されました。

演奏当夜、団員は演奏会場にそれぞれ苦労をして集まりました。団員は東日本大震災の地震を東京で体験し、また当日の津波の様子をTVで目の当たりにし、精神的に不安定な気持ちでの集合だったそうです。団員は客も集まらず果たして演奏が出来るのか不安な状態でした。演奏開始の時間も迫り聴衆も百数十人になり、せっかく演奏を聴きに来た方々にそのままお帰り頂くのは申し訳ないと演奏を開始することにしました。

最初のトランペットの演奏が始まったとき、団員の皆が何時もと違う気持ちに切り替わっていました。来た方々に全力で応えよう、また津波・地震で亡くなった方々にこの曲を送ろう、との決意に変わりともかく全力の演奏になったそうです。一つの音に集中し、団員の一体感、集中力は何とも言い表せなかつたと言っていました。

また、聴衆の方々も震災直後交通機関のない中で、ある方は徒歩で、ある方は自転車を使い1、2時間かけて集まり、大変な中での参加だったようです。

しかし聴衆の方々も、団員の何時もの演奏を越える圧倒的な迫力に、感動に次ぐ感動でいわゆる「奇跡の演奏」の聴衆になったようです。

その意味でマーラーの「交響曲第五番」を今回聴くことにしました。大震災から1周年を過ぎ、そして「奇跡の演奏」をうけ、「第五番」の一つの解釈を心理学者のエリザベス・キューブラー・ロスの「死の瞬間」になぞって考えてみました。

ロスとは全ての患者が以下のよいうな《死》の経過をたどるわけではないとしつつも「死の瞬間」は ① 否認 ② 怒り ③ 取引 ④ 抑うつ ⑤ 受容 の5段階で進むと考えています。

ます。

またマーラーは「第5番」の解釈として、マーラー自身が「」の部分を書き記しています。まず第1楽章は「葬送行進曲。正確な歩みで。厳格に。葬列のように。」と記しています。私はここは大震災で亡くなった方々へ、生者の亡き人をお往りする思いの部分と解釈しました。第2楽章は「嵐のように激して、いつそう大きなげしきで。」と記されている通り、亡くなった方々の思い、例えば親子、家族との受容出来得ない突然の別れ。ロスの「死の瞬間」では、①、②、③ を指すと思います。第3楽章は「スケルツォ・力強く、早すぎずに。」と記され、此処は亡くなった方自身の生前の思い出をたどる思い。ロスでは④ を指すとも思います。第4楽章は、「アダージェット。非常にゆつくりと。」と記され、亡き人と共に生者も死を受容して行く。ロスでは⑤ の段階。第5楽章は、「ロンドーフィナーレ・アレグロ。」とあり、亡き人を思いつつ生者の、尚割り切れぬなか、新たな決意の出發と考えます。以上、大震災を「第5番」を通し聴いたと思います。

マーラーは特に死を恐れ、死を厭う面の強い作曲家で、10番

目の交響曲を作曲中にベートーヴェンや他の作曲家が亡くなっていることで、10番を厭うことから、第10番目の交響曲を「大地の歌」としたと言われておりますが、この曲を通してマーラーの心の深層が表されていると解釈できると思えました。

◎ 今回はベートーヴェンの「交響曲第1番」と「第2番」を続けて聴きました。賢治さんはベートーヴェンを好んで聴いたようですが、「交響曲第1番」や「交響曲第2番」を聴いた記録は見受けられないと思えます。今回は、「第1番」を通しモーツアルトやハイドンの影響を強く受けながら、しかしベートーヴェンの独自性を垣間みせるようです。また「第2番」は「第3番 英雄」から始まり「第9番 合唱」へと続く、交響曲の高峰のアルプス連山の始まりを予見させるような曲想を味わいました。2曲とも後のベートーヴェンが表す、自身の深い思いをストリートに出し、重々しさを激しさはないが、明るく、清らかな曲で聴き易く、どちらも演奏時間が短い為か演奏会でも余り演奏されません。しかし、ベートーヴェンの若き日の思いを伝える名曲であることは間違いないことと思えました。

(姉齒武司 記)



……

今回は、「賢治と音楽を楽しむ会」の参加者の代表的な声を簡単にまとめてもらいました。

■遠田 弘 さん

「ブルックナーの交響曲第4番を聴き、特に第4楽章では音の渦に巻き込まれ、上下左右に揺り動かされているような思いでした。大きくて気持ちのよい揺りかごに乗せられている様な一時でした。これまでも「第4番 ロマンチック」は聴いたことがありましたが、このような大音響の中で、いいひとときを過ごすことが出来ました。すばらしかったです。」

■湯浅 亜耶乃 さん

「題から想像するイメージと実際に流れるメロディーのギャップが楽しめる作品で、賢治さんも聴いたらその意外さを楽しんだのではないかと思います。」

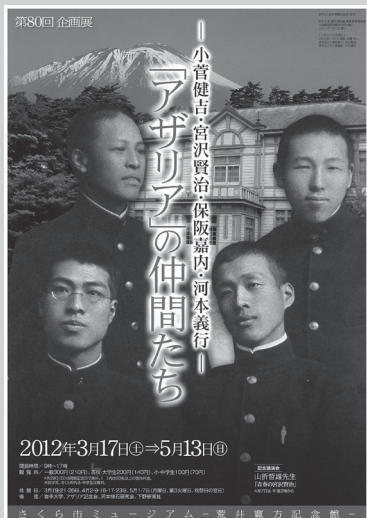
私はこうしてじっくり交響曲を聴くのが初めてで、通して聴けるか不安でしたが実際に聴いてみると、映画を見る様な感覚で、音楽をみる感覚になり、気づいたらアツと言う間のひとときでした。また参加させていただけたらと思います。ありがとうございました。」

■村田 光男 さん

「毎回、賢治さんが聴いたと思われる、広大、且つ広域な音楽にひたり、自分も賢治さんになつた様なひとときをすごしております。私の貴重な時間になっております。」

■榎原 幹雄 さん

「ブルックナーの交響曲第4番は、ドラマチックですがワーグナーほど重くなく、長い曲ではあるが爽やかな味で疲れずに聴くことができました。オペラが好きな賢治さんもきっと気に入ったことと思います。私の勝手な思いをいわせてもらうと、なみだを少々と、愛情をスプーンに一杯いれてほしい」ということです。」



さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館-より、「小菅健吉・宮澤賢治・保阪嘉内・河本義行-「アザリア」の仲間たちの図録が送られてきました。

その内容がすばらしく、宮澤賢治センター会員の皆様にご紹介したく思いました。小菅健吉の故郷で開催されたこともあり、小菅に焦点を当てながらも、ほかの3人の生いたちなども詳しく紹介されています。

青春の軌跡『校友会々報』、『アザリア』の青春では、盛岡高等農林での4人の出会いと文芸活動について豊富な図面と共に生き生きと描かれています。とりわけこれまでほとんど知られることのなかった小菅健吉に関して中野英男氏（『小菅健吉と盛岡高農の群像』）と神山壮氏（『小菅健吉とアメリカ通信』）の論考が鮮やかにその人間像を描き出しています。

また、現在改修中の岩手大学農業教育資料館所蔵資料が豊富に引用されており（盛岡高等農林学校生の温もり～農学教育資料館所蔵資料より～）、盛岡高等農林に集った4人の若者の在りし日の姿が克明にたどられています。

今回の企画展では、小菅家、保阪家、河本家などからも多大な協力を得ており、賢治以外の3人に関してこれまで公にされていなかった資料が数多く採録されています。年譜や展示資料一覧も充実しており、資料的な価値がきわめて高い図録であることは間違いありません。

この図録を入手したい方はさくら市ミュージアム-荒井寛方記念館-にお問い合わせください（電話=028-682-7123 ファックス=028-682-7854）。残部がある限り、一部千円（送料別途）で頒布するという事です（佐藤竜一 記）。

# 宮澤賢治記念短歌会報告

会員 佐藤静子

## 「曲水の宴」

盛岡市内が六魂祭で賑わっていた6月3日、平泉の毛越寺では2年ぶりの「曲水の宴」が開かれていた。その席に主客歌人として招かれたのが、望月善次先生であった。先立つて装束の説明があつたが、衣冠を正した先生の衣装は紫がかつた紅で、蘇芳色と言う。お向かいの歌人は浅縹色。王朝の色とはその名も何と美しい事か。蘇芳色は先生にはよくお似合いで、失礼ながら、なかなかの貴人ぶりである。会員の阿部真紀子さんの歌は「夏のみどりに映える師の衣誇らしく我シャツターを押す」

遣り水は残念ながら観客席からは見えず、羽觴を流す流觴曲水は、童子たちの動きから察する他は無かつた。しかし童子の愛らしさと動きの優雅さが目を惹いた。歌人を真っ直ぐに見つめる目、短冊を受け取る時の伏し目。歩く仕草は童子ながら、あつぱれ平安人であつた。

歌題を披露する女性は十二単を纏っている。5月にしては暑すぎる日で、紅い大きな日傘は

何の役にも立たず、陽は容赦なく彼女や歌人たちを直撃している。しかし十二単を纏いながらも微動だにせず、微笑み続ける姿は感動でさえあつた。

今年の歌題は「願(ねがい)」。「3・11東日本大震災」を踏まえての歌題であろう。

先生のお歌  
大震災の涙を越えてみちのくにさわやかな風吹きわたれかし

実は、下段の各自の歌3首、望月先生の歌は、「曲水の宴」と名付けられた20首の連作の中から選んである。20首の最後を締めくくることが、この震災の歌であつた。歌には、歌合や賀宴に詠まれる公の歌「晴の歌」と、個人の心情を詠む「羨」の歌があるという。「曲水の宴」で披露される歌は、まさに「晴の歌」という事になる。先生は個人的な状況を超えた万人の思い、大震災に対する鎮魂の祈りと復興の願いを歌に籠められたものだ、私は受け止めた。

歌は、宮中歌会始の披講者、近衛忠大氏と坊城俊在氏のゆるやかな調べでもって読み上げられ、浄土庭園に流れていった。

## 2月～5月までの短歌3首

姉齒武司

・雪ふりて降りて重なる庇雪下弦の月が青き鈍振る  
・あの日から鉄路止まりしカンパネラ駅舎の時計は6分遅れ  
・動きたび「ヨイショ！ヨイショ！」の声が出る「良い処(シヨ)」「良(よ)一生」を目指し行きたし

阿部真紀子

・落ち着かず春雪の中7000歩疲れとちがう何がゆれる  
・身の奥に空(くう)の部分が如しそこから風が生まれて風  
・この家はある人入る人忙しく独居老夫遠く山見る

北田まゆみ

・嫁(ゆ)きし子の本の棒線たどり読むそうだったのかとたどれば夕暮れ  
・ニ・ニ・ロツソのトランベツトは雨の日に聴くが良しとし雨を喜ぶ  
・幸せにしてあげるのに掬うたび夜店の金魚はみな逃げ回る

小菅アイ

・我が家の犬のカイトはセーターを着ても散歩を好まぬらしき  
・会ひしことなき祖母は関東の大震災に死にしと聞きぬ  
・ひな祭に生まれし孫はをどこなり龍生の名に紅き産着なり

昆明男

・青空に流れる雲を描かんとクレヨン買って白くぬりたり  
・桜木は散つたあとから新年と言ひし娘が薄くはにかむ  
・啄木忌その意味わかとと修司言う百年たつたら帰つておいで

佐藤静子

・我が頭ちよこんとつつき寝に行ける夫の足音しんと淋しい  
・身の裡の空洞少し広がりと鬱という字がうつつ溜まる  
・夜の森の二千余本の桜散るその夜は桜狂うて舞うべし

田村依江

・この地より生きて帰りし人あらば尋ねてみだし心のうちを  
・アムールの水面望みておもうこといつか晴れたらここで会いたい  
・青塗りの橋を渡れば重茂なり瓦礫未だにすさまじき痕

望月善次

・四月から五月にかけて闘うは季節移しの儀式だきつと(曲がる)より(くねる)こそかく大事なり(くねる)が醸す(皮肉)の匂い  
・高らかに(文化)宣言その一章(水美しき日本である)

吉田直美

・前を行くヴェイツツのマーク眩しくてその輝きは春かもしれない  
・ざいぶんと待たされたよな春が来たあんまり遅いと素直になれない  
・差し伸べる桜の枝ははらはらと春が散る散る花びら流る

工 ツ セ イ

# 啄木・賢治と肺結核

岩手大学教育総合センター

佐藤 竜一

啄木は満26歳、賢治は満37歳で亡くなった。

平均寿命が異なるとはいえ、ずいぶん若死にである。ふたりとも肺結核に侵されていた。

呼吸器疾患である。現代では完治する病だが、明治時代初期までは労咳と呼ばれ、国民病とされていた。

第二次世界大戦後の昭和26(1951)年3月31日に結核予防法が制定され、抗生物質を用いた化学療法の普及により、肺結核患者は激減した。2007年3月31日には、結核予防法が廃止されている。

明治45(1912)年1月23日、啄木の母カツの肺結核が判明した。

その日の日記に啄木は「母の病気が分つたと同時に、現在私の家を包んでゐる不幸の原因も分つたやうなものである。私には母をなるべく長く生かしたいといふ希望と、長く生きられたい困るといふ心が、同時に働いてゐる」と書いた。

啄木はすでに姉サダを肺結核で亡くしていた。明治39(1906)年2月25日のことであ

る。サダは結婚し田村姓になっていて秋田県鹿角に住んでいたが、29歳でこの世を去った。

加えて母までが肺結核に侵されているという。

前年(明治44年)2月4日、啄木は慢性腹膜炎と診断され、東京帝国大学構内の医科大学付属医院青山内科に入院したことがあった。慢性腹膜炎は結核菌の腹膜への感染で発病する。

あるいは、母の肺結核が判明した時点で、啄木は自身も同じ病気にかかっている気がついたかもしれない。3月7日にカツが死去。66歳だった。

同居していた啄木には死期が迫っていた。

死の恐怖に襲われたと思われる啄木は、にわかに栄養を摂りはじめた。「おすし 二十五銭」「おさしみ 十五銭」「かば焼き 二十五銭」などという支出が一家の金銭出納簿に記されている。

だが、そういった生への執着は徒勞に終わり、身体はやせ衰え、咯血を繰り返す日々が続いた。

4月13日の午前9時30分、啄

木は死去した。26歳2か月の短い生涯だった。枕元には父一禎、妻節子、友人の若山牧水がいた。4月15日、浅草の等光寺で葬儀が行われた。

不幸は続いた。節子も肺結核に侵されていた。房総に移り結核療養をした節子だったが、大正2(1913)年5月5日、函館の病院で死去した。28歳だった。京子と房江のふたりの幼い娘が残された。

賢治は花巻の裕福な家系に生まれた。その上、盛岡高等農林学校(現岩手大学農学部)卒業という高学歴をもっていたため、自身が特権階級に属しているという意識にいつもさいなまられていた。

反面、宮沢家の一族からは結核患者が多く出ていた。当時結核は不治の病とされており、罹患すると差別の対象とされた。宮沢家は周囲から敬遠されていたのだ。

現実に最愛の妹トシは大正11(1922)年11月27日、24歳で亡くなるが、死因は肺結核だった。

賢治は大正7(1918)年4月26日、花城小学校で徴兵検査を受けている。結果は第二乙種。肋膜炎が悪いと判断されたため、当面兵隊にとられる心配は

ない。

だが、肋膜炎の悪さは肺結核と密接に結びついている。賢治は自身が結核に侵されつつあることをこのとき、自覚したかもしれない。

盛岡高等農林学校を卒業した賢治は恩師の関豊太郎に勧められ、研究生として残った。

稗貫郡の土性地質調査の仕事は、幼少の頃から石が好きで周囲に「石っ子賢さん」と呼ばれていた賢治にとって、天職にも思えたに違いない。

だが、この仕事は山歩きが多い肉体労働だ。やがて身体の不調を覚えた賢治は医師の診察を受けたが、肋膜炎が悪くその仕事をやめるようにといわれた。

やむなく、賢治は研究生をやめる決断をし、大正7(1918)年7月20日、関豊太郎に退学を申し出た。

自分は長生きできないに違いない。そういう思いはその後の賢治の人生につきままとつた。昭和3年、32歳の賢治は病に臥すが、原因は肺結核だった。

花巻農学校をやめて取り組んだ羅須地人協会も、晩年の東北砕石工場の技師兼セールスマンとしての仕事も結局、病気のため途中で断念せざるを得なかった。肺結核は次第に賢治の身体を

むしばみ、ついには命を奪った。昭和8(1933)年9月21日、賢治は37年の生涯を閉じた。

## 「宮澤賢治ノ青春キャンパス」の案内

宮澤賢治が卒業した盛岡高等農林学校は、岩手大学農学部の前身です。岩手大学のキャンパスを歩けば、賢治が生きた時代の名残に触れることができます。

ところで、パソコンで賢治の生きた時代をたどれるをご存じですか？ 岩手大学のホームページにリンクされている「まるとデジタルミュージアム」をまずクリックしてください。

その中で「宮澤賢治ノ青春キャンパス」と題するコンテンツでは、盛岡高等農林学校時代に賢治が参加した文芸同人誌「アザリア」の仲間たちについて紹介しています。

保阪嘉内、河本義行、小菅健吉といった仲間たちは、賢治の人生に大きな影響を与えました。このページを読むと賢治在籍当時の風情に触れることができます。

賢治と三人の友人との交友は、世代を超えて現在も続いています。まだ見ていない方はぜひこのページをご覧ください。

特別寄稿

三陸沿岸の賢治詩碑

「宮澤賢治の詩の世界」主宰 浜垣 誠司



「発動機船 第二」詩碑と見守る人々。右後ろは三陸鉄道橋脚。

ある事件や人物の記録を後世に残すために、石に文字を刻むという行為は、はるか紀元前中国の春秋戦国時代から行われていたということです。木や竹や紙に記された文字が、天災や戦火によって失われて行ったのに対して、「碑（いしぶみ）」は二千年以上の時を越えても生き残り、現代の我々に悠久の歴史を伝えてくれます。

一方、繰り返し津波の被害を受けてきた三陸地方においては、その悲痛な教訓を次の世代に確実に引き継いでいくということは、命にも関わる切実な課題でした。種々の「言い伝え」

とともに、津波からの避難の教えや居住制限を記した石碑が、この地に多数残されているのは、こうした事情によります。一説には、三陸沿岸には約二百の津波記念碑があるとも言われています。

さて、私はこのような事情とは全く別個に、なぜか昔から「石碑」というものに興味があったようで、道端に碑を見つけると、立ち止まってそこに書いてある文字を読もうとする変な子供でした。また同時に宮澤賢治も好きになっていったものですから、気がつくとい私は「賢治に関する石碑」を探訪することを趣味としていたのです。現在、全国に賢治の作品等を刻んだ石碑は百数十個ほどありますが、新たな碑が建てられたといニュースを聞くたびに、そこへ行かずにおれなくなるという習性が身につけてしまいました。

三陸地方は、前述のように石碑の豊かな土地ですが、魅力的な賢治の詩碑もたくさん立てられています。内陸育ちの賢治にとって三陸はホームグラウンドではありませんが、生涯に何度

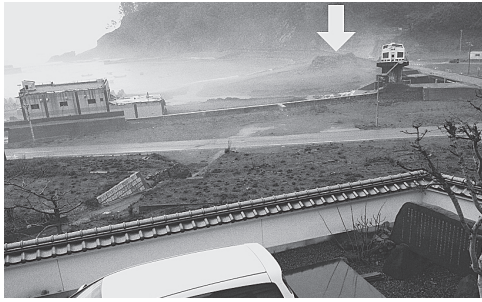
か思い出深い旅行をして、重要な作品を残しました。そして賢治と三陸の風物の出会いが作品を生み、それをまた後世の地元の人々が受け取って、碑に刻んで残すという、幸福な相互作用がそこには生まれています。賢治詩碑めぐりをする私にとっても、三陸はかけがえのない場所でした。

※

東日本大震災によって、三陸地方が甚大な津波被害を受けたと聞き、真つ先に脳裏に浮かんだのは、何人もの知人の顔でした。何とか安否を確認して、その後は矢も楯もたまらず支援活動を模索した日々もありました。夏を過ぎた頃から気になり始めたのは、あの三陸沿岸にあった賢治の詩碑は、今はどうなっているのだろうかということでした。気にはなりながらも、なかなか現地を訪ねる時間もとれずにいたのですが、昨年11月に石巻市の医療支援に行つたついでに三陸の南半分をまわり、去る5月の連休に北半分を見てくることができました。ここに、その簡単な報告をいたします。

震災前に、岩手県および宮城県沿岸部には、賢治の作品を刻んだ石碑は、全部で9つありました。その場所と現在の状況

碑名	所在地	現状
「敗れし少年の歌へる」詩碑	下閉伊郡普代村 まついそ公園	詩碑は健在だが、周囲の小屋は流失。
「発動機船三」詩碑	下閉伊郡田野畑村 田野畑駅前	健在。
「発動機船二」詩碑	下閉伊郡田野畑村 井賀漁港	流失して行方不明になったが、6月下旬に発見され本家旅館で保管。
「寂光のはま」歌碑	宮古市浄土ヶ浜	健在。説明のため横に立てられていた副碑は流失。
「農民芸術概論 綱要」碑	陸前高田市高田高校校庭	校舎全体が壊滅的な被害を受け、碑もいまだ行方不明。
「雨ニモマケズ」詩碑	気仙沼市唐桑町 若草山	健在。
「われらひとしく丘に立ち」詩碑	石巻市日和山	健在。
「ポラーノの広場」碑	塩竈市港町シオーモの小径	約40度に傾きながらも辛うじて立つ。



手前の車の後ろの直方体が「発動機船一」詩碑。元は上の矢印のあたりに設置されていた。

は表のようになります。各地の被災状況に応じて、その地の賢治詩碑の状態も様々でしたが、私が最大の衝撃を受けたのは、陸前高田市の高田高校の有り様でした。壊滅的なダメージを受けた無人の校舎だけが残り、今も生徒たちは無理をして大船渡市の仮校舎まで通っています。以前この校庭には、「農民芸術概論綱要」から、「まづもろともにかゝやく宇宙の微塵となりて無方の空にちらばらう」の文字を、谷川徹三氏の揮毫で刻んだ立派な石碑があったのですが、「瓦礫に覆われたグラウンドをいくら探しても、その碑は見つかりませんでした。いつの日か、高田高校生がまた元の場所に戻る暁には、何とかこの碑も見つかって一緒に再出発を祝うことができなかと、祈るばかりです。

また、田野畑村の三陸鉄道鳥越駅前にあった「発動機船第二」詩碑の様子にも、心が締め付けられました。海辺に開けた鳥越の集落は、駅舎や高架の線路とともに、津波によって根こそぎ流されてしまいました。賢治の詩碑だけがなぜか激流に耐えて、ぼつんと取り残される羽目になったのです。その衝撃的な写真は新聞等でも取り上げられましたので、「奇跡の詩碑」として話題になりました。私が訪ねた際にも、被災地を巡るバスターがわざわざこの碑に立ち寄っていて、中には関西から来たという団体客もおられました。「失われた悲しみ」とはまた別の、「残された悲しみ」を感じさせる碑です。

同じ田野畑村の「発動機船一」詩碑は、平井賀漁港の海岸線近くに立てられていました。津波の後しばらくは行方不明になっていました。昨年6月下旬になって、浜辺で瓦礫の撤去作業をしていた業者が、黒い大きな碑石を発見し、建立者である「本家旅館」にひとまず運び込みました。しばらくして旅館のお女将さんが、元あった場所これに設置し直そうとしたところ、村役場から待ったがかかったということで、今もなお

石碑は旅館の庭に所在なげに置かれています。私はその旅館に泊めていただいたのですが、流された家々について話すお女将さんの言葉が印象的でした。童話「ポラーノの広場」には、主人公のレオーノキユーストが、「イーハトーヴォ海岸地方」（すなわち三陸海岸地方）へ出張して地元の人に歓待され、素晴らしい夏の日を過ごす場面があります。感極まったキユーストが、ふと「わたくしはもうこれで死んでいい」とまで思うところは、きつと賢治自身の三陸旅行における体験に基づいているのだらうと、私は感じていました。この、「三陸へのオマージュ」とも言うべき箇所の一部を刻んだ碑が、一昨年に塩竈市の「シオーモの小径」という散策路にできたのですが、この碑も津波で傷んで大きく傾いてしまい、しかし辛うじて倒れずに立っていました。

私はこの「ポラーノの広場」碑ができた時から、この散策路を、三陸の数ある賢治詩碑群全体の「南の入口」のように感じていました。そして今回は、その碑が傷を負いながら踏みとどまっている様子を見て、何度も挫折を経験しつつも耐えた、宮沢賢治という人の生涯を思わず連想しました。



傾いて立つ「ポラーノの広場」碑。

※ 一方には、高台にあったおかげで全く無傷ですんだ碑もあり、三陸の賢治詩碑と言っても実に様々です。ただ少なくともこれらのうちで、「発動機船第二」詩碑や「発動機船一」詩碑などは、津波の被害の記憶を後々まで伝えるために、将来的に何らかの形で公的に再建されて、記念碑の一部等となることが予想されます。はるか江戸時代から、人々の思いを込めて三陸沿岸に建てられてきた二百もの石碑群の一部に、新たにこれらの賢治詩碑も加わり、次の代へと受け継がれていくのです。



人々は石碑を建てて無事を祈願したわけですが、その東の「いしぶみしげき」海岸に暮らす人々も、やはり自然の猛威を石に刻みつつ生きてきたことを、あらためて思います。

## 特別寄稿

企画展「小菅健吉・宮沢賢治・保阪嘉内・河本義行」  
「アザリア」の仲間たち展を開催さくら市ミュージアム 荒井寛方記念館  
学芸係長 小竹弘則

栃木県 さくら市ミュージアム 荒井寛方記念館では、平成二四年三月一七日(土)から五月一三日(日)まで第八〇回企画展「小菅健吉・宮沢賢治・保阪嘉内・河本義行」「アザリア」の仲間たち展を開催しました。

大正時代、盛岡高等農林学校に集い学業や文芸活動に情熱を注ぎ込んで育まれた四人の終世の友情や文芸誌『アザリア』創刊の青春を紹介した展覧会です。「アザリア」の仲間たちをテーマに様々な作品や資料を展示する企画展は栃木県では初めてのものとなりました。岩手大学にご後援を頂き、情報メディアセンターや農業教育資料館から貴重な史料、標本群の貸し出しをいただき充実した内容とすることができました。

この企画展の主役の一人である小菅健吉は栃木県さくら市の出身です。明治三〇年(一八九七)生まれ、氏家尋常高等小学校高等科を経て栃木県立農学校に進学、卒業後、一年間自家就業と称して家業である

農業に携わりますが盛岡高等農林学校への進学を志し、大正四年(一九一五)年、見事農学科第二部に合格しました。農学科第二部の同級生には宮沢賢治があり、また一年後には農学科二部に保阪嘉内、農学科第一部に河本義行が入学します。自啓寮に入寮した嘉内の室長は宮沢賢治であり、ここに運命的な出会いと特別な青春の始まりがありました。

展示では『アザリア』創刊以前の青春の軌跡を知る貴重な資料として農業教育資料館所蔵の盛岡高等農林学校『校友会々報』を紹介することができました。

小菅健吉の杜陵文壇デビューは大正五年七月一五日発行の『校友会々報』二一号で「文苑」欄に「よせあつめ」と題し「けんきち(小菅)」の名で短歌一二首を詠んでいます。続く同年一月二五日発行の第三二号では賢治も『校友会々報』に初めて作品を発表します。ここでは健吉と賢治は名前を交換して投稿しました。この号で健吉

は「賢治」の名で文語詩「初夏雨の日に」、「KENJI」の名で二首を発表しています。一方、賢治は「健吉」の名で「灰色の岩」二九首を投稿しています。賢治と健吉が名前を入れ替えて投稿したこと、そこから二人の育まれた深い友情を知ることができました。私たちにとって『校友会々報』は特別な思いを込めた展示となりました。

四人の文学への情熱はさらに高まり、大正六年七月一日、文芸同人誌『アザリア』創刊へと進みます。「アザリア会」には同人一二人が参加し、創刊号「あざりあ」第一號には健吉が青春のたぎる思いを込めて巻頭言を綴ります。「アザリア」のリーダーはまぎれもなく小菅健吉であったとの思いをあらたにしました。『アザリア』で自由闊達に文芸活動に傾注する四人ですが、その後の己の信じる道と心友の結びつきの源はここにあると思います。

やがて四人はそれぞれの道を進み、小菅健吉はアメリカ留学に挑みます。嘉内に宛てたアメリカからの手紙の実物を保阪家の特別のご理解を頂き展示させていただきました。そこには喜びや苦悩、友への思いを心からあふれた文章で綴っています。また、四人の友情の結節点と

なつた嘉内が大切に保管した手紙などから心の結びつきが時空を超えて貴いものと感じました。展示した河本義行の詩「なやめる樹」(大正一〇年)にある「友に送る詩」には「みんな自分の道をもつてゐる」「君やKやMの事を思ふと／私の旅も孤独でなくなる／君らの事を思ふと／歩みたくなる…」(部分)とあります。

今回の企画展では賢治の主治医であった栃木県那須町出身の佐藤隆房先生、「アザリア」同人の一人である栃木県出身の鯉沼忍も紹介することもでき、賢治はじめ「アザリア」の仲間たちと栃木県の縁も伝えることができました。

会期中には「青春の宮沢賢治」と題した山折哲雄先生の記念講演会をはじめ、志賀かう子先生の「朗読とお話 岩手・賢治・わたし」、小菅充氏、保阪庸夫氏、杉田英生氏ほか研究者の方々を迎えて「アザリア」の仲間たちの集い、健吉のアメリカからの書簡を紹介する神山壮氏の講座「小菅健吉 アメリカ通信」「アザリア」の仲間たち音楽会や宮沢賢治原作16mmフィルム映画上映会など関連事業も多数開催し、多くのお客にご来場いただきました。

さくら市の『氏家町史 史料

編 近代の文化人」編さんのため小菅健吉関連資料の集成に努めました。発刊後、いつか小菅健吉の地元、さくら市ミュージアムで企画展を開催したいという希望がありました。この度、夢が実現し充足感を感じる一方でアザリアの仲間たち、その友情を広く紹介したい、また、永く後世に伝えたいという責任と新たな夢を持ちました。

岩手大学をはじめ保阪嘉内のふるさと山梨県韮崎市では「アザリア記念会」、河本義行のふるさと鳥取県倉吉市では「河本緑石研究会」が結成され様々な顕彰活動が展開されています。小菅健吉のふるさと栃木県さくら市でも「アザリア」の仲間たちを学び伝える活動を行っていただきたいと考えております。この場をお借りして今後のご支援をお願い申し上げますとともに、本企画展に頂いたご協力に御礼を申し上げます。

さくら市ミュージアム 荒井寛方記念館





ウ	ル	グ	アイ
だ	よ	り	1

岡田 幸助

賢治センターの皆様ご無沙汰してきます。私ども夫婦は3月28日に無事、モンテビデオに到着いたしました。約1カ月間の現地でのスペイン語の語学研修を終えて、私は4月24日からウルグアイ共和国大学の獣医学部に派遣されています。シニア海外ボランティアとしての業務はこちらの病理学教室の支援です。

派遣前に長野県の駒ヶ根訓練所で65日間の訓練を受けてまいりましたが、私の場合は特殊で英語や国際協力は学びましたがスペイン語は学びませんでした。私のカウンターパートは分子生物学の助教授で英語で話してくださいますが、他の先生方は私と同じ程度の英語しか話しませんので、かゆいところに手の届く会話には不自由です。そこで現在私はスペイン語を猛勉強中です。自宅で日本から持ってきたテキストを自習して翌朝、テクニシヤンの女性に直していただきます。67年間使わずにほったらかしにしていた脳に



神経細胞をアポトーシスが起こして死んでしまう前に居眠りから起き返らせるよう必死です。病理学教室にはさまざまな動物や研究テーマが持ち込まれます。牛の植物中毒、ヘビの腫瘍、カエルのツボカビ症、鶏脳脊髄炎、伝染性ファブリキウス囊病、鶏の原虫病などです。それらへの助言や技術支援が私の役目です。その他に獣医病理標本の検討会もすることになっていきます。

共和国大学の先生方でもわかりやすい英語を話す人は少数で、交流のためにはどうしてもスペイン語を習得する必要があります。「世界全体が幸せになるために」賢治もエスペラント語を勉強しようとしたようです。

私もどれほど達成できるかわかりませんが期間中努力したいと思っています。

モンテビデオは南米にある小さな、200年の歴史のある、スペイン・イタリア系白人による、モダンな町です。こんな不思議な町が地球の裏側にあるとは知りませんでした。アー・デコ調の美しい装飾の施された石造りの建物がいくつもあり、一方近代的な10階から20階の高層ビルがラ・プラタ川沿いに立ち並んでいます。河畔では釣りをする人、ヨットを楽しむ人、サーフィンをする人などを見ることができ、さらながらリゾート地のようにです。牛肉、ワイン、果物もおいしく生活は快適です。こちらは現在、冬ですが氷が張るほどではありません。

町は緑豊かで、北半球の人々が戦争に明け暮れているとき、ウルグアイは平和で輸出で大もうけたのです。福祉の点では南米のスイス、美しい点では南米のバリといわれていたようです。しかしのんびりしているうちに世界から遅れをとったというわけです。古きよき時代のものがたくさん残っています。馬車やオート三輪、おんぼろのトラクタも走っていますよ。ひよっとすると競争社会のアメ

リカ文化よりこちらのスローの社会のほうが正解かもしれません。

毎日バスで通っています。ウルグアイには鉄道はなく、バスだけです。とても合理的に発達しています。パソコン上に路線図が示され、どこまで乗っても1時間以内は19ペソ(80円)です。郊外に出かけて日本だと500円から1000円もかかる距離でも19ペソです。前から乗り、中ほどに車掌がいて、バスカードを機械にタッチします。すると乗車券のレシートが出てきてもらっておきます。その券は回収されるわけではなく持ち帰り、集めるところに提出すると車いすの寄贈に利用できます。路線バスの中にチョコレート売っている人や、小物売っている人、流しの歌を歌う人(ギターを抱えとても美声)が乗り込んできて商売をしています。バスの中では幼稚園生のような小さな子供が友達とスペイン語で生意気にしゃべっています。複雑な活用をするスペイン語が口からすらすら出てきて不思議に思います。

最後に獣医学部の学生についてお話ししましょう。入学試験も定員もなく学費は無料で1年生は500人ほど入学してきます。6年制ですが進級試験が難



しく、10年ぐらいかかって、やっと卒業できます。それも毎年85人程度しか卒業できません。それ以外の人は留年か転学か退学ですね。ですから学生はとも熱心に勉強します。教養科目はなく獣医学の専門課程のみです。畜産、水産や農業経済なども入っているみたいです。先生は230人ぐらいいるのですが、フルタイムの教授は少なく、どの先生も学生も2、3の職業や学業を兼業しています。これがウルグアイの構造的な問題でしょうか。給料を高くして安心して教育研究に専念できるようにしなければなりません。またお便りします。皆さんもお元気で。

(宮澤賢治センター 理事)

# 第6回宮澤賢治センター学生短歌大会御案内

いつも宮澤賢治センターの活動に御支援を賜り感謝申し上げます。

皆様の御支援により、本センターの学生短歌大会も、第6回を迎えることになりました。

本年度も昨年度に引き続いて「宮澤賢治記念短歌会」が主管致しますのでよろしくお願い申し上げます。

「宮澤賢治記念短歌会」は、宮澤賢治の盛岡高等農林学校までの文芸活動のほとんどが、「短歌」であったことを記念して、月例の活動を行っている団体です。

活動場所は、宮澤賢治センターの設置場所であり、今大会の表彰式会場でもあります「岩手大学・百年記念館」であります。(実務につきましては、下記岩手大学地域連携推進センターが行っております)

具体的実施要項は以下の通りです。  
ふるって応募くださいますようお願い申し上げます。

主催：宮澤賢治センター  
記

主管：宮澤賢治記念短歌会  
後援：(含交渉中) 岩手大学、盛岡大学、岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、花巻市教育委員会

テーマ：広い意味で宮澤賢治に関わるものであること。

投稿資格：幼稚園～大学・大学院の学生・生徒であること。

投稿可能数：一人一首

募集期間：2012年8月20日(月)～2012年11月2日(金)〔郵送の際は、同日到着〕

選者：佐藤通雅、文屋亮、望月善次

投稿先・問い合わせ先：宮澤賢治センター

住所 〒020-8551  
盛岡市上田4-13-15  
岩手大学地域連携推進センター

TEL：019(621)6672  
FAX：019(621)6493  
E-mail：renkei@iwate-u.ac.jp

表彰：★学校種別の枠は設けず、幼稚園～大学の一括審査とする。

最優秀賞(1人)

優秀賞(2人)

入賞(若干名)

学校賞(若干校)

★賞状、賞品。

なお、最優秀受賞者には、表彰式参加の交通費(必要によっては宿泊費)を支給。

表彰式：2012年12月1日(土) 10時00分～(岩手大学・百年記念館(宮澤賢治センター))



昨年の授賞式の模様

## 編集後記

▽巻頭言で執筆されていますが、岡田幸助代表を引き継いで新しい代表に就任した鈴木幸一先生は、岩手大学農学部卒業ということもあり、熱烈な賢治ファンです。賢治は昭和2年、盛岡中学校校友会雑誌への寄稿を求められ、「生徒諸君に寄せる」という詩を書きますが、その中に「新たな詩人よ／嵐から雲から光から／新たな透明なエネルギーを得て／人と地球にとるべき形を暗示せよ 新たな時代のマルクスよ／これらの盲目な衝動から動く世界を／素晴しく美しい構成に変へよ 諸君はこの颯爽たる／諸君の未来圏から吹いて来る／透明な風を感じないのか(断章七)」というフレーズがあります。鈴木新代表はこの「生徒諸君に寄せる」が特に好きなそうです。宮澤賢治センターには新しく理事に大野眞男先生が加わりました。新しい風を起こせたらいいと思います。

東日本大震災から一年四か月が経過しましたが、被災地の現実にはほとんど変わっていません。

私の生まれ故郷である陸前高田ではなお、がれきが山のよう

設店舗による営業が少しずつ広がっているといった現状です。以前と比べ、生活用品が入手しにくくなり、大船渡や気仙沼まで行かなければ生活用品がそろわないと陸前高田に住む伯母は嘆いています。

三陸沿岸には賢治の詩碑が数多く建っていたのですが、その現状を浜垣誠司さんのレポートが伝えていきます。貴重な調査だと思えます。

近年、賢治と盛岡高等農林時代を過ごした仲間たちにも光が当てられるようになりましたが、さくら市で行われた企画展に関して、小竹弘則さんに寄稿していただきました。

賢治がもたらしてくれる広がり

(佐藤竜一 記)

### 宮澤賢治センター通信

○発行

〒020-8551

盛岡市上田四丁目三番五号

電話：019(621)6672

FAX：019(621)6493

E-mail:kenji@iwate-u.ac.jp

HP: http://kenji.gcs.iwate-u.ac.jp/

宮澤賢治センター(岩手大学内)

発行責任者 鈴木幸一

○印刷 杜陵高速印刷株式会社